

今月のテーマ 離棟・離院対策について

離棟・離院を起こしてしまう患者の中には、認知症を患っている方もおり、一人で院内・院外を行動するには特別の注意が必要です。階段からの転落、交通事故、水難事故、夏場は熱中症、冬場は凍死、凍傷などの可能性があり、患者の安全を考えた対策を考えなければなりません。では、病院や施設様ではどのような対策を取られているのでしょうか？

病院で行われている離棟・離院対策

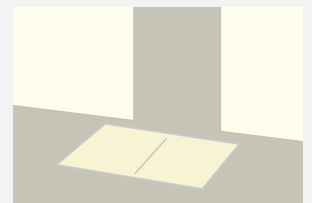
- ・危険ゾーンや立ち入り禁止場所の制限
- ・出入り口にセンサーを取付け、報知音が鳴った際の確認
- ・認知症患者や以前離院・離棟をしてしまった患者の胸元に目印のシールを付け、職員全員で見守る。
- ・監視カメラの設置 など

テクノスジャパンの機器を用いて離棟・離院対策！

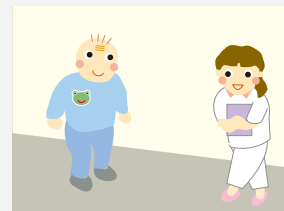
禁止場所の制限



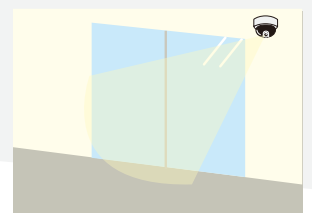
センサーで侵入検知



職員の見守り

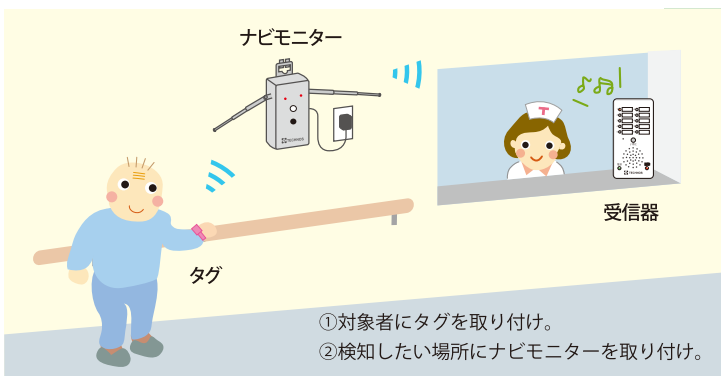


監視カメラ



徘徊ナビ

対象者がナビモニターの前を通過すると、受信器にお知らせします。



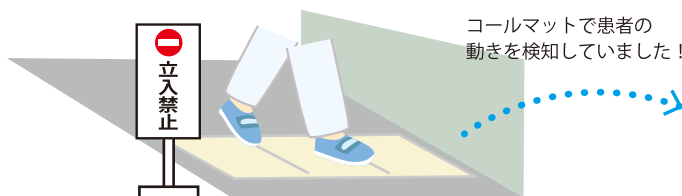
徘徊ナビは・・・

- ✓ 対象者の動きに早期に駆け付けることができ、離院・離棟を防ぐきっかけとなる。
- ✓ スタッフが患者を常に監視せず（気にしないで）、安心して他の業務にあたることができる。

その他の離棟問題事例

コロナ病棟で隔離されている患者ゾーンから出たことを知りたい。
また、無断離院も防ぎたい。

○ 病院様（福岡県） 使用機種：コールマット X・スマート



コロナ病棟で隔離されている患者様の無断離院を防ぐ目的で使用したところ、取り扱いもしやすく場所も取らないので効果的でした。
スタッフの評価も良かったです。